

## 【祝 叙勲】

## 平成 26 年秋の叙勲受章

瑞宝双光章受章 謹んでお祝い申し上げます。

大屋 俊 男 氏

昭和 39 年 3 月 卒業 39 回生  
元島根県立中央病院医療技術局次長



一瀬 弘之 氏

昭和 45 年 3 月 卒業 45 回生  
元日赤原爆病院技師長



## 瑞宝双光章拝受の栄に浴して

長崎・佐賀支部 長崎県 一瀬 弘之

平成 26 年 1 月長崎県診療放射線技師会から、秋の叙勲に推薦したいという打診がありました。私にとって晴天の霹靂でしたし、技師会の会長、副会長職を経験したわけでもないので、承認されるはずがないと思い辞退しました。しかし話を聞いてみると、公共に対し功労があり公務に長年従事し成績をあげた者を受賞対象とする賞もあり、可能性がゼロではないことが判りました。なるべく多くの診療放射線技師が受賞できれば良いと考えていましたので、捨て石になるつもりで受諾しました。

私は卒業後、久留米大学医学部付属病院、日本赤十字社長崎原爆病院に勤務し、退職後は 3 ヶ所の医療機関で臨時職員として働いていますので技師生活は 45 年になります。

振り返ってみますと、診療放射線技師の存在意義を劇的に変えたのは、CT 装置の出現によるところが大きいと思います。昭和 59 年 CT 装置の 1 号機導入に伴い、運用を任されて改めて実感したのが、CT 画像の病変描出能の高さでした。当時は設置台数も少なく、検査待ち日数が半年から 1 年という施設もありました。普及型 CT でしたが稼働率は高く夜遅くまで検査をすることで、院外紹介も積極的に受け入れて、1 日の検査人数が 20 名から 30 名に達し、待ち日数も 3 週間程度に抑えることができました。この状況が 8 年ほど続きましたので、地域医療に少なからず貢献できたのではないかと考えています。

この度平成 26 年秋の叙勲に際し、凶らずも瑞宝双光章拝受の栄に浴し、大変名誉な事と有り難く思っています。

去る 11 月 5 日に、長崎県庁に於いて中村知事より勲記、勲章の伝達を受けました。翌 11 月 13 日には、厚生労働省で山本副大臣の祝辞があり、その後、バスに同乗して皇居に参内し、豊明殿において多くの受賞者、配偶者共々天皇陛下に拝謁の栄誉を賜りました。

これまで支えていただいた多くの方々に深甚の敬意を表するとともに、投稿の機会を与えていただいた学友会関係各位に謝意を表します。有難うございました。

最後になりましたが京都医療科学大学の今後益々のご発展を祈念いたします。

以上